

令和6年5月12日（日） 坂本農林水産大臣現地御視察資料

国営諫早湾干拓事業について

長崎県

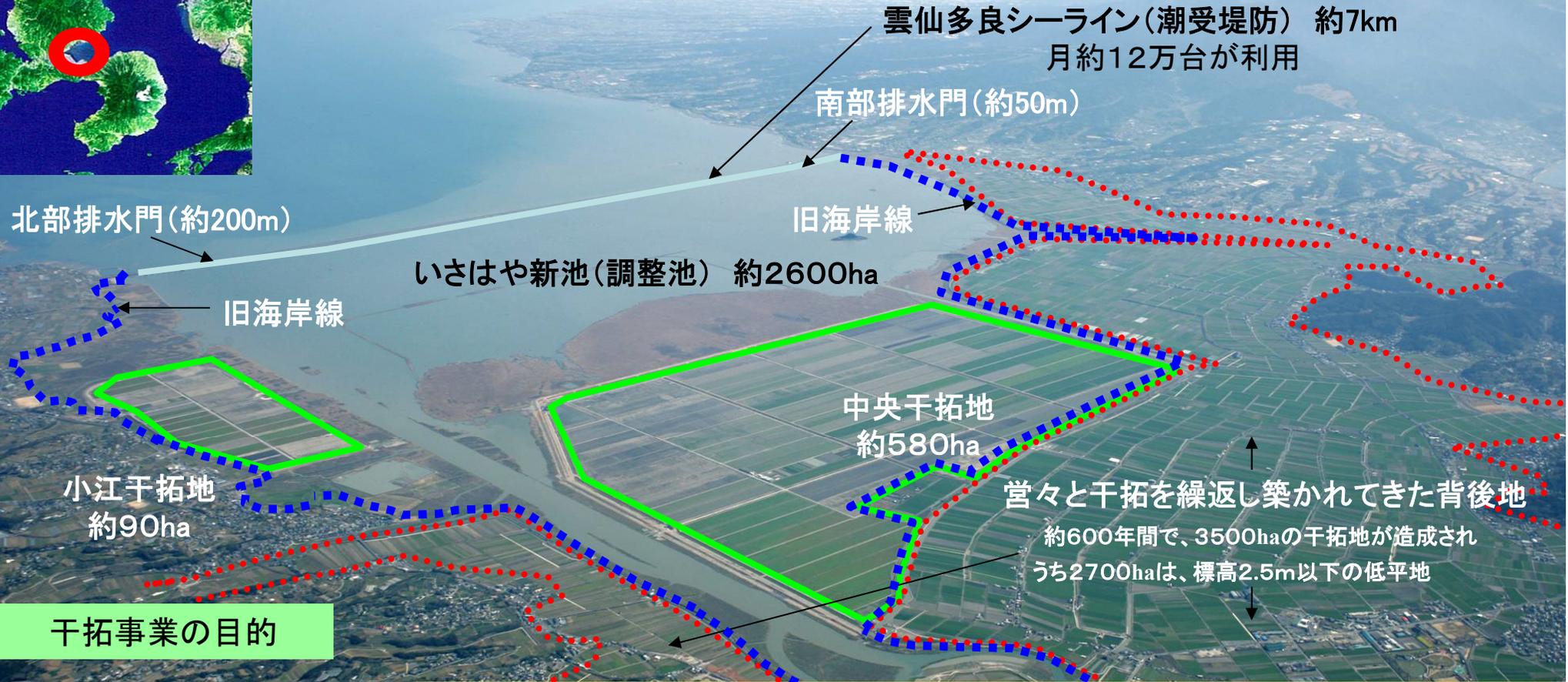
(令和6年5月)

目 次

- ◆諫早湾干拓事業の経緯及び現状 1
- ◆本県・地元が国に求めていること 1 2

諫早湾干拓事業の経緯及び現状

諫早湾干拓事業の目的



干拓事業の目的

防災機能の強化

優良農地の造成

全長約7kmの潮受堤防により水位を低く管理された調整池の設置により、高潮・洪水や常時の排水不良等に対する防災効果を強化。

平坦で大規模な農地において、調整池からの安定した農業用水を利用し、環境に優しい農業による先駆的な農業経営を推進。

諫早平野は6百年前から干潟、干拓、干潟、干拓を繰り返してきた特異な地域 (50年に一度は干拓)

○ 有明海の潮流は反時計回り

図-1



○ 干潟の形成

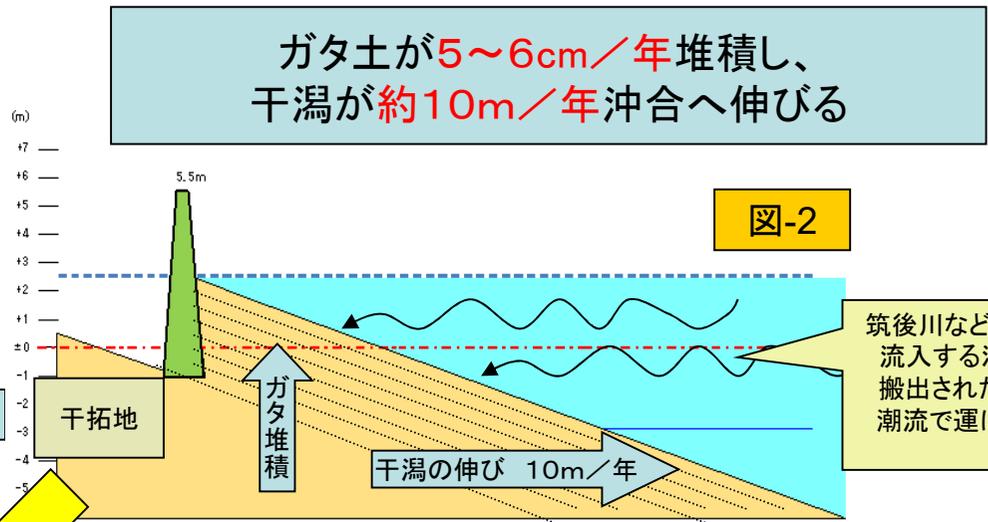


図-2

○ 干拓が繰り返し行われ諫早平野を形成

図-3



排水樋門前のガタ土の堆積状況

図-4



堆積したガタ土を人力で除去していた



諫早湾周辺は集中豪雨が 발생しやすい、台風の通り道という災害を受けやすい地域

- 1 諫早平野は、東シナ海からの湿った風が収束し、集中豪雨を発生しやすい独特の地形です。
- 2 諫早湾沿岸地域は日本に接近・上陸した台風のうち、約5割が接近している台風の通り道で、海岸沿いの低平地は高潮被害に苦しんでいました。

図-1 東シナ海からの湿った風が湿舌となり大雨をもたらす

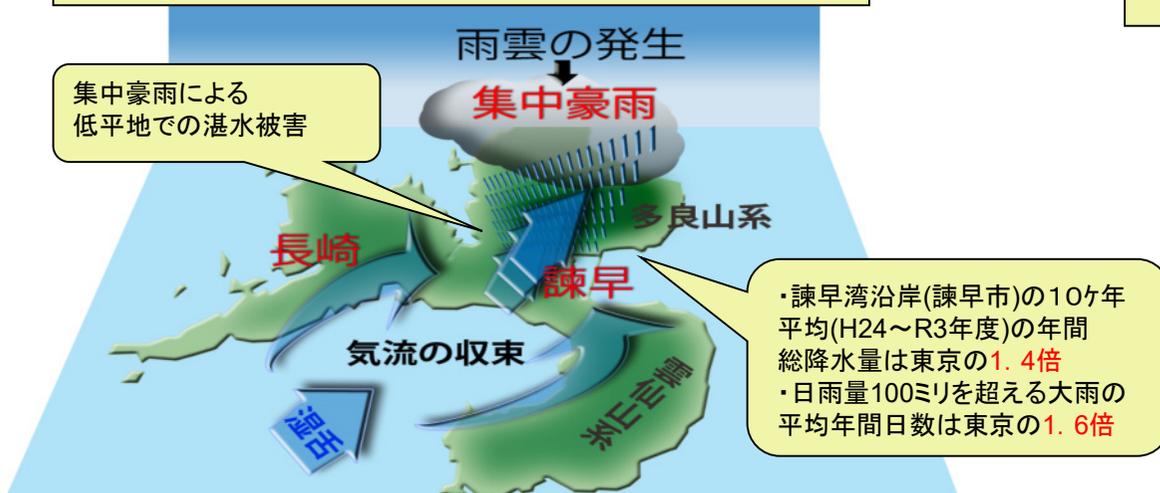


図-2 2004年の日本上陸台風10個のうち5個が諫早に影響



図-3 昭和32年諫早大水害に遭い屋根で救助を待つ住民



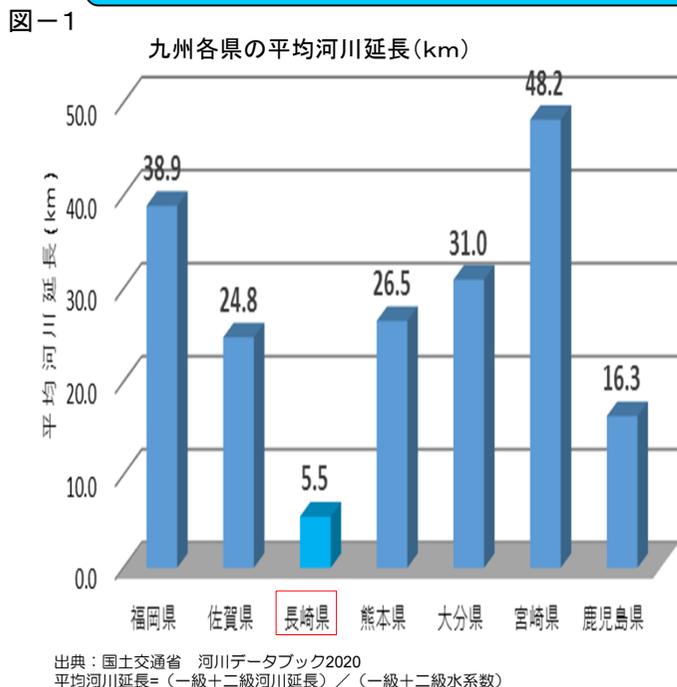
図-4 昭和60年8月◎高潮被害(台風13号)の状況(諫早市川内町)



河川水や地下水などを水源とすることが困難な地域

- 1 干拓地は、海を干して造成するため水源が確保できず、周辺の河川等に求めざるを得ない土地である。
- 2 さらに、長崎県の河川は、延長が短く、水量が少ない。(図-1)
- 3 その水源を地下水に求めた場合には、汲み上げによる地盤沈下が大きな問題となり、この周辺の森山干拓では8年で140mmも沈下した場所があります。
平成11年以降は調整池の淡水化に伴い、背後地の水源への海水の浸入が無くなった為、農業用水への利用が可能となり、地下水の汲み上げが減少したことで、地盤沈下が沈静化しているところ。(図-2)

1 長崎県の河川は、延長が短い

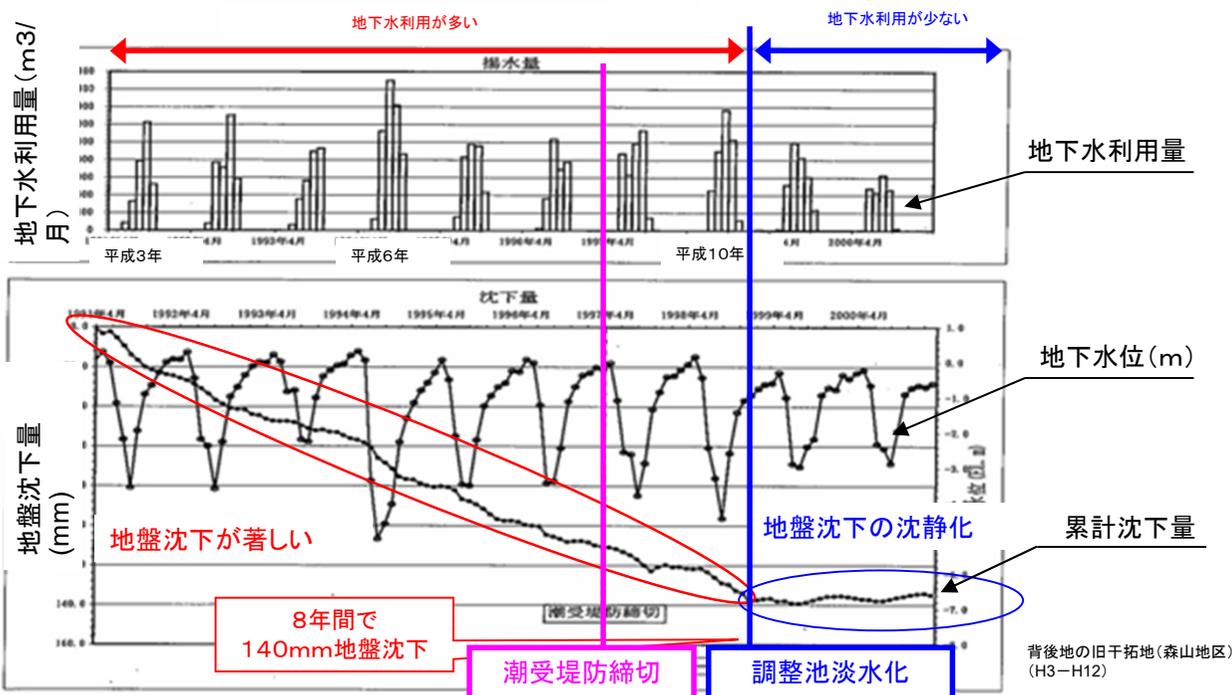


長崎県の平均河川長は、5.5kmで、九州で一番短い県である。
長崎県内一の河川
本明川 流域面積 249km²(利根川比 1.5%)
幹線流路延長 28km(" 8.7%)

2 地下水利用と地盤沈下

平成10年までは、地下水を多く利用したため、地盤沈下が著しい傾向を示している。
平成11年以降、調整池が淡水化し、地下水の汲み上げが減少したことで、地盤沈下が沈静化している。

図-2 地下水利用と地盤沈下量の相関



ガタ土の堆積・災害・水不足の長年の問題の解消に取り組む諫早湾干拓事業

- 1 当初、戦後の食料不足を解消する食料増産を目的にスタートしたが、「ガタ土堆積・災害・水不足の解消」と「農業振興」の2つの目的を一貫して実現しようとしてきたのが諫早湾干拓事業です。
- 2 S57年までは、背後地の防災・水源開発と農業振興を両輪とし、工業立地、淡水漁業も含めた地域開発計画として拡大された。さらに水不足に悩まされている長崎市等周辺市町への都市用水も追加されました。
- 3 S57年の打切り、漁業関係者等との調整等を経て、S61年には干拓でできた諫早平野の宿命である高潮・洪水に対する防災と用水が確保された優良農地の確保の2つの柱に限定して念願の干拓事業に着手されました。
- 4 H14年には更に、環境への一層の配慮と工期厳守等のため干陸規模を縮小し、H20年3月に完成しています。

S27

長崎大干拓構想

食料増産

戦後の食料不足の中で、
県民の食料を確保

①S39長崎干拓事業

1. 目的
食糧供給、地域開発
2. 事業概要
・干拓面積 10,090ha
・干陸面積 6,720ha
3. 項目

食料増産
〔自作農の創設
農業の近代化〕

背後地の防災
〔高潮防止
洪水防止
排水改良〕

水源開発
〔農業用水
工業用水
水道水〕

水産振興
〔淡水魚養殖〕

工業立地

②S45長崎南部総合開発事業

1. 目的
農業と商工業の振興
2. 事業概要
・干拓面積 8,470ha
・干陸面積 4,850ha
・都市用水 20万t
3. 項目

高生産性農業の育成

背後地の防災
〔高潮防止
洪水防止
排水改良〕

水源開発
〔農業用水
都市用水
工業用水〕

水産振興
〔淡水魚養殖〕

工業立地

S57打切り

背後地の防災重視の計画に見直し

〔最小限に縮小〕

1. 目的
・防災対策
・用水が確保された優良農地造成
2. 事業概要
・干拓面積 3,550ha
・干陸面積 1,635ha
うち農地面積 1,477ha
3. 項目

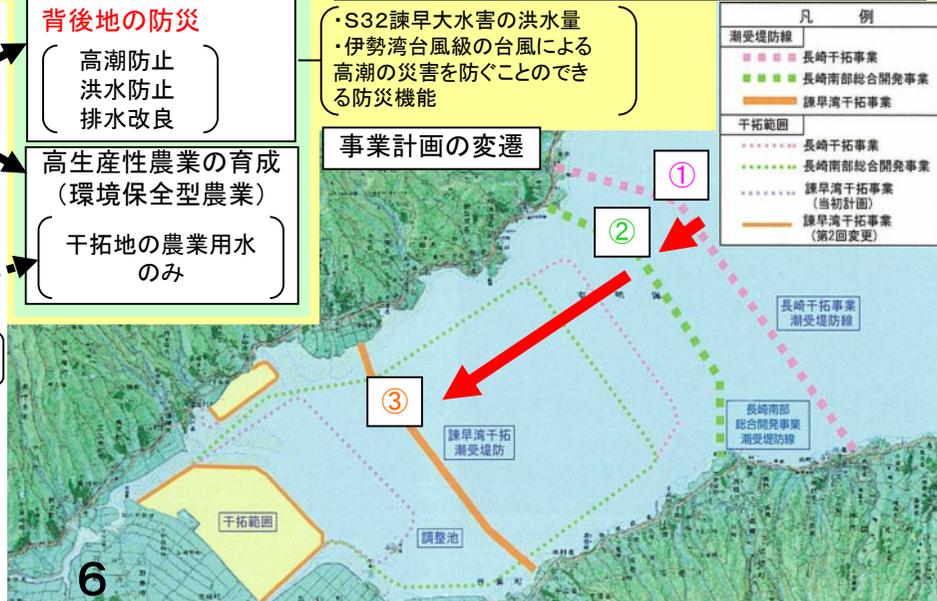
背後地の防災
〔高潮防止
洪水防止
排水改良〕

高生産性農業の育成
(環境保全型農業)
〔干拓地の農業用水のみ〕

③ S61諫早湾干拓事業

- 事業及び調査・検討の経過
- S61. 12月 事業着手(～S63. 3漁業補償契約完了)
H 9. 4月 潮受堤防の締切
H11. 3月 潮受堤防完成
H13. 再評価
H14. 6月 規模縮小見直し
- ・防災機能の十分な発揮
 - ・概成しつつある農地の早期利用 (1/2に縮小)
 - ・環境への一層の配慮
 - ・予定工期の順守 (H18年度)
- ・干拓面積 3,542ha
・干陸面積 942ha
うち農地面積672ha

事業計画の変遷
〔S32諫早大水害の洪水量
・伊勢湾台風級の台風による
高潮の災害を防ぐことのできる
防災機能〕



H19

完成
干拓農地

672 ha

を長崎県農業振興公社が51億円で取得

H20

農業者に干拓農地をリースし、営農開始

調整池の水位を標高-1.0mに管理することで、背後地の排水が改善された。

1. 諫早湾の潮位は概ね1日2回干満を繰り返し、大潮の満潮時の平均は標高+2.5m、干潮時は標高-2.8mと、潮位差が大きく、最大では約6mにもおよぶ大きな変動が見られる。
2. 諫早湾干拓事業により潮受堤防で締切られ、潮位の変動にかかわらず、調整池の水位を平均海水面から1m低く（標高-1.0m）管理できるようになった。
3. これにより、最低標高が約-0.8mの低平地である背後地から、常時排水ができるようになった。

図-1 諫早湾の潮位変動（大潮時）

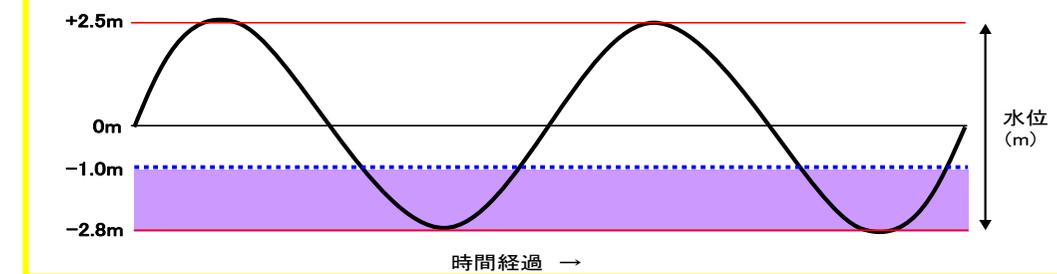
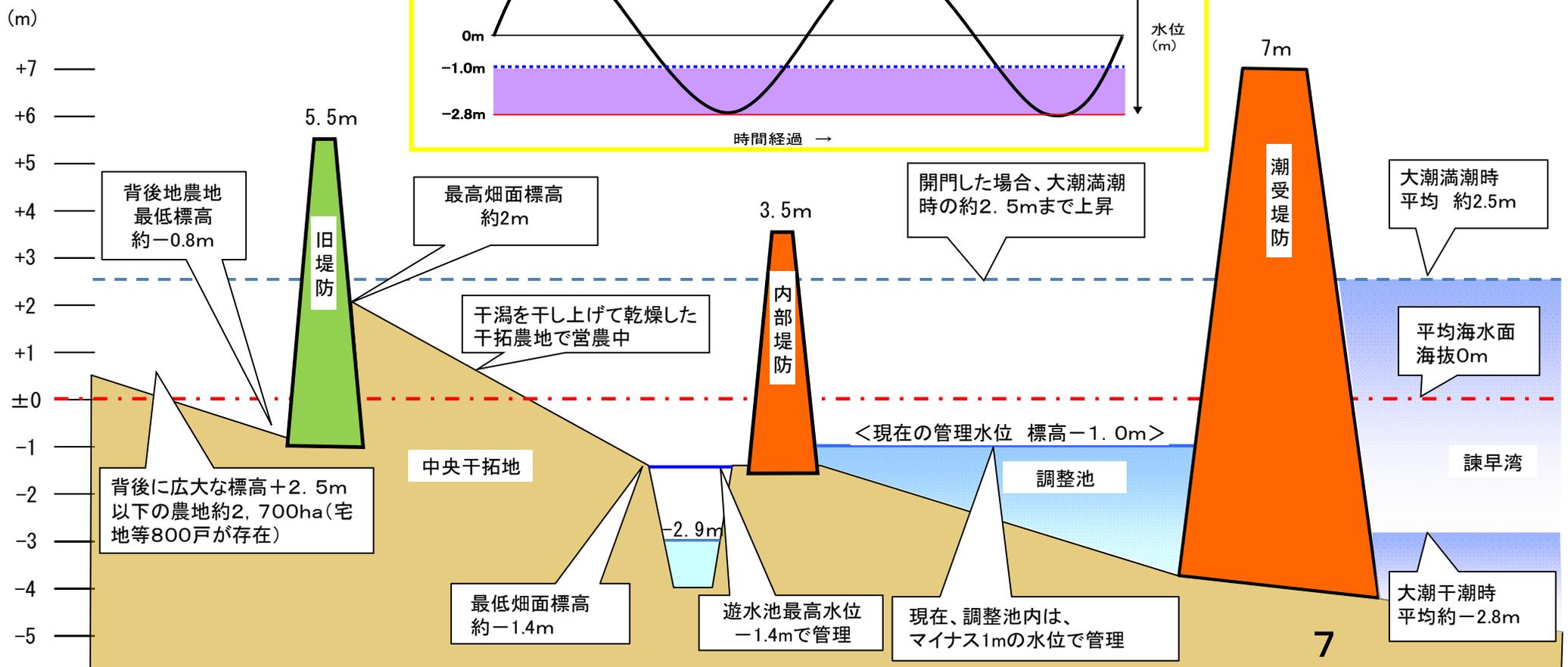


図-2 調整池の水位管理



令和3年8月の大雨における潮受堤防の洪水防止効果

潮受堤防による洪水被害防止効果

調整池の水位を平均海水面より1.0m低く管理することにより、大雨時においても標高の低い背後地の雨水はスムーズに調整池に流れ込み、湛水被害を抜本的に改善しています。

昭和32年7月(諫早大水害)

雨量

総雨量 700~800mm以上
(気象台の観測開始前であり、正確な雨量は不明)

被害状況

死者・行方不明者539名、家屋損壊2,221戸

昭和57年7月(長崎大水害)

締切り前



雨量

最大時間雨量 99mm
総雨量 492mm

湛水状況

湛水が4~5日継続

被害状況

死者2名、全壊2戸、半壊11戸
総額100億円を超える被害

令和3年8月

締切り後



雨量

最大時間雨量 71mm
総雨量 829mm
(R3年8月11日~17日)

湛水状況

一時的に湛水が発生したが、迅速に解消

被害状況

死者なし、家屋損壊なし

令和3年8月の大雨においては、現時点で調整池周辺で大きな被害は確認されておらず、調整池の防災効果が遺憾なく発揮されました。

調整池を水源とする灌漑用水を利用し、大区画で平坦な優良農地を活用した日本農業をリードするモデル的な農業を展開

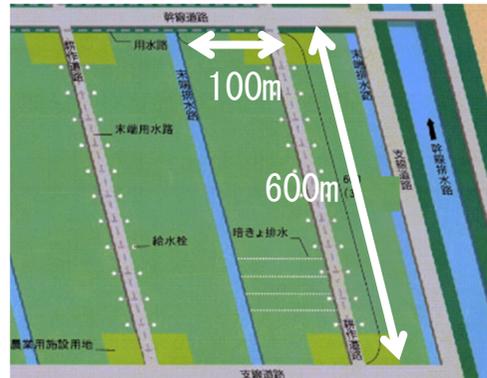
1. 中山間地域が多い長崎県内では他にない平坦な大区画ほ場。(標準区画 中央干拓地6ha、小江干拓地3ha)。
2. 38の経営体(令和4年度)によって有機栽培を含めた環境保全型農業が意欲的に展開されており、令和4年度の収穫面積は1,233ha (農地面積666ha)で、収穫された生産物は主な品目で約1万8千t以上です。

諫早湾干拓の耕地利用率 197%(全国平均の約2倍)

全国平均 89.2%(R4全国耕地利用率(畑))



1区画当りの標準面積が6ヘクタール(100m×600m)の中央干拓地(写真右奥は諫早湾干拓背後の旧干拓地)



○調整池を水源とするかんがい施設が整備されている。

○年間積算日照時間は県内他地域より長く、気温の日較差が大きいことが特徴。

○カルシウム、マグネシウム、カリウムなどのミネラル分を多く含む。

肥沃な土壌と十分なかん水によって生産された農産物は品質が良く、市場や実需者からの高い評価を得ている。

露地畑のかん水



収穫面積(R4年度)	
品目	面積(ha)
露地野菜	408
施設園芸	21
単棟ハウス	72
飼料作物	396
その他	170
緑肥	166
計	1,233

主な品目別収穫量(R4年度)	
品目	収穫量(t)
レタス	約6,500
たまねぎ	約6,100
キャベツ	約3,200
ブロッコリー	約1,800
にんじん	約1,000
計	約18,600

スプレイヤーによる防除



キャベツ収穫機



大区画ほ場での大規模経営であり、作業の効率化を図るため一連の作業は機械化されている。

農地に近接する用地に集出荷施設が建設されたり、大規模なビニルハウスが集約して建設される等、約600人の雇用が創出されている。

集出荷施設



大規模ハウス団地



諫早湾干拓地(新干拓地)の収穫面積および収穫量



日本一の牡蠣



小長井町漁業協同組合

華漣

長崎県小長井

第1回 かき日本一決定戦

JAPAN Oyster Championships

初代王者 2012.04.01

日本一を受賞した小長井町のかき「華漣(かれん)」



潮受堤防排水門の海岸で、潮干狩りを楽しむ家族連れ



完全手掘りのプリプリなアサリ



諫早市小長井地区の浜の活力再生プランが「令和5年度 浜の活力再生プラン」優良事例の「農林水産大臣賞」を受賞

諫早湾干拓事業で創出された潮受堤防、調整池、新干拓地においては、現在、新しい地域資源として様々な利活用が始まっています。



クリムソクローバー



干陸地での植物観測会



ボート関連のスポーツイベント

<実施主体> — : 県 — : 民間団体等 — : 県・民間協働

県・地元が国に求めていること

県・地元が国に求めていること

令和5年の農林水産大臣談話の考えを踏まえ、県としても漁業団体と共に有明海の再生にしっかりと取り組んでまいりますが、国においても有明海の漁業不振の原因究明を進めるとともに、海域特性に応じた効果的な水産振興策や環境改善対策を実施し、真の有明海再生を目指していただき、漁業者が元気になるような施策をお願いしたい。